

人吉市復興計画（第１期・素案）に対する意見公募（パブリックコメント）の結果について

【実施概要】

1 実施期間

令和３年２月９日（火）～令和３年２月１８日（木）

2 閲覧及び意見用紙配布場所

- 市役所カルチャーパレス仮本庁舎１階ロビー・２階復興支援課窓口、
市役所西間別館、市保健センター
- 市ホームページ
- 各仮設団地内みんなの家
- 各校区コミセン（被災で使用不可の施設を除く）

3 意見の提出方法

閲覧場所に設置された投函箱に投函、郵送、ＦＡＸ、電子メール、持参

4 募集結果

１５名（市内１５名、市外なし）

※記載については受付順としています。

【対応結果一覧】

対応区分	対応方針
1	素案を修正する
2	意見趣旨を反映する
3	今後の取組や復興まちづくり計画策定時において、検討又は参考とする

人吉市復興計画（素案）に対する意見公募（パブリックコメント）の結果と、ご意見等に対する人吉市の考え方について

通番	枝番	ご意見等の概要	対応区分	市の考え方
1	1	（人吉復興計画意見書・前文） 球磨川・川辺川流域自然遺産の有効活用について ＝「国立球磨川流域自然博物館」設立の願い＝ 2020年7月4日熊本豪雨で球磨川が氾濫、人吉市及び流域全体が被災しました。気候変動は地球規模的な問題の視点なのですが、なぜか流域の再興＝治水＝穴あきダム建設等が性急に提起され、被災住民の復興意欲への足かせとなっています。人吉市及び沿線の復興は堤防やダムによる治水策優先ではなく、この苦難を新たな地域づくり、街づくり、人吉市復興の好機として、この地を自然と一体化する＝球磨川と共生するための視点と捉えて、流域自然遺産全体の博物館活用事業を提起します。 今、全国の国立博物館には中央には国立歴史民俗博物館（れきはく）、国立科学博物館（かはく）、国立民族学博物館（みんぱく）他、さらに歴史や美術、科学、建築他、国立博物館が多数存在しますが、なぜか地方には国立博物館は存在しません。そこで、この南九州の人吉市の位置に国立の自然博物館（しぜんはく）を創って頂きたいと願う事業です。 でも、これは箱ものを造ろうと言うものではありません。お願いをしたいのは、この人吉市を含む流域全体の災害を“母なる球磨川に学ぶ”とする「国立球磨川流域博物館」（仮称）の提案です。関係の皆様はこの意見内容をご一読頂き、さらに主旨、活動、ねらい等に修正やご意見を頂戴して、この球磨川流域自然博物館のイメージをより内容あるものにして頂ければと考えます。勿論、この事業の主眼は人吉の街の復興を始めとして、現存する既存ダムの役割の終焉を待って、球磨川流域をより元の自然に戻す、水の文化、水の循環を大切に“自然との共生”を計ることが基本です。 大事なのは、この流域全体を市民と地域、国の両者の視点で育てる自然博物館にすることがポイントです。本流に存在する人吉の街の立ち位置が、この川の自然の姿、母なる恵みそのものが“球磨川流域自然博物館”なのです。 そして、その中核・発信源となるのが、球磨川の存在価値を紹介する「国立くまりば・センター」基地です。源流、上流、中流、下流、河口の各地に設けるこの発信基地は、この川の存在と人との共生の自然性、必然性をしっかりと学習出来る役割も担います。人吉市は勿論、国や県、各都市の行政・教育関係、民間団体諸氏に、この自然博物館創設にご賛同頂き、行政内に本構想を推敲修正する部署や、実践に相応しい人材をご登用願えれば幸いです。そして市民各位が賛同者のお一人として、この夢を実現するためのご支援を頂ければと存じます。 【人吉市と球磨川流域が未来の希望につながるための「国立球磨川流域自然博物館」事業・意見書】 “令和2年7月4日熊本豪雨水害”で被災した人吉市及び球磨川流域全体の生活文化と歴史、その復興と自然との共生のために、球磨川・川辺川流域資源を「国立球磨川流域自然博物館」とする設立事業を提案します。 名称：「国立球磨川流域自然博物館」（仮称）及び「国立くまりばセンター」（仮称）事業 National Field Museum KUMAGAWA (NFMK) Tentative name ナショナル フィールド ミュージアム クマガワ National Kuma-river Center (NKC) ナショナル クマリバ センター 主旨：この博物館は自然そのまま、生きている球磨川・川辺川水系全体を利用したフィールド・ミュージアムです。人吉市民・熊本県民・日本国民の皆様が水泳や釣り、野鳥観察、狩猟、カヌーやキャンプなどの自然体験は勿論、九州脊梁水系と河口を含めた風土と生活の歴史、文化、教育、産業など、清流球磨川全般に関する歴史と生活文化や資源情報を一元的に集約。それらを保存・発信し、河口から水源まで全流域を活用した自然との共生、農林水産資源の活用・発信など、それらを通して球磨川流域全体を自主参加型、地域交流型のネイチャーミュージアムとするものです。 そしてこの“母なる球磨川”の流域各地には、山遊び、川遊び、自然科学教育の起点となる「国立くまりば・センター」施設を人吉市他に造る構想です。この流域自然博物館の存在が郷土愛、自然愛を育み、引いては治山治水を含めた日本一の清流・球磨川の自然環境との共生、水の循環。それらが「瑞穂の国・日本」としての国土愛と全人的教育、地球規模の気象改善にもつながります。今こそ、失ってはならない自然の力による緑の文化、水の文化、この地の自然遺産の存在を見直し、球磨川との共生をしっかりとこの人吉の地から発信・再構築すべき時です。 ・対象流域：人吉市を中心に熊本県南部球磨川・川辺川の各本流と支流、その水源から球磨川河口までと、その拡がりである八代海、そして県境の隣接市町村を含むものとする ・想定流域面積：約2200km² 流域延長約190km ・水源池：球磨川水源は球磨郡水上村の石楠越及び水上越 川辺川水源は八代市泉村の国見岳 ・くまりばセンター設置場所：人吉市、球磨川・川辺川各水源、上流、中流、下流、河口	3	本市における復興の将来像（復興ビジョン）であります「～希望ある復興を目指して～球磨川と共に創る みんなが安心して住み続けられるまち」に基づき、（１）安全・安心な地域づくりに向けた復興、（２）未来への希望につながる復興、（３）市民一丸となって取り組む復興という３つの基本方針を掲げて各施策の今後の方向性などを体系的に整理したものが復興計画ですが、頂戴した具体的なご提案を参考とさせていただき、今後の復興まちづくりに繋げていきたいと考えています。
2	2	自家再建者に対する支援策が小さいように思います（事業者再建や解体再建者に比べて）。せめて今後１０年間は、今実施している住民税、国保税、固定資産税等の減免を続けて頂きたい。これによって、人吉市外への住民の流出を抑えられると思います。	3	自家再建者の方を含めた恒久的な住まい対策については、様々な機会と手法により支援制度の周知と相談体制の確保を行っていきます。なお、減免措置等による被災者の負担軽減については、国等関係機関との連携が必要です。税の観点だけでなく被災者支援を全般的に充実できるように努めてまいります。ご意見につきましては今後の取組の参考とさせていただきます。
	3	青井地区（青井さん周辺）の解体家屋跡を公園化できないでしょうか。将来の観光にも水害のモニュメントとしても活用できると思います が・・・？	3	今後、住民の方などに主体となっただき、地区ごとの具体的な取組を盛り込んだうえで策定する復興まちづくり計画の参考とさせていただきます。
3	4	復興計画に「『緑の流域治水』に関する本市の基本的な考え方」を登載されたことはとても良かったと思います。この「基本的な考え方」の中には、住民や事業者が取り組むものがあるので、「災害に強い都市基盤づくり」の項の中で、雨水浸透施設等（雨水浸透ます、雨水浸透トレンチ、透水性アスファルト舗装及び雨水貯留槽）の設置について、補助金の交付などの支援策を創設する、とはできないか。	3	国・県に要望しながら、地域全体で治水安全度を高める取組を進めてまいります。また、今後、住民の方などに主体となっただき地区ごとの具体的な再生方策を検討する復興まちづくり計画を策定するなかで、具体的な取組を検討してまいります。ご意見につきましても今後の参考とさせていただきます。
	5	表記の修正および追記について ・９ページの「人吉浄水苑」を「人吉浄水苑」に修正 ・１２ページの「下青井町公民館」を「下青井会館」に修正 ・２９ページの「人吉城内の長塙」を「人吉城跡の長塙」に修正 ・５７ページに「ショーケース化」を追記	1	ご指摘ありがとうございます。 記載を修正させていただきました。

人吉市復興計画（素案）に対する意見公募（パブリックコメント）の結果と、ご意見等に対する人吉市の考え方について

通番	枝番	ご意見等の概要	対応区分	市の考え方
4	6	九日町の中心にある、店舗兼自宅で被災しました。私たちの避難（商品を２階に持ってあがる。より上へ避難する。）基準は、中川原公園の浸水度合いで判断しています。今回、「中川原公園を無くす」という話が出たと聞いて、とても悲しく不安に思いました。中川原公園は、立体的な建物の中で生活している人たちにとっては、ひとときの自然を体感できる場所だとも感じています。私たちの川と触れ合える公園、川の水が増えた時の判断基準となる公園を無くさないで欲しいと切に願います。	3	中川原公園の在り方につきましては、歴史的見地や科学的見地の両側面から検証し、国・県の治水対策や住民意向等を踏まえ、今後の方針を検討してまいります。
	7	中心市街地の今後は、条例を作成して頂き、更地及び空きスペースに緑や木を植え、人が憩える空間づくりをして欲しいです。		中心市街地の復旧復興に当たっては、賑わい創出を醸し出すようなまちづくりが重要であり、住民の方や事業者の方々と十分な協議、検討を重ね再生方針を検討していく必要があります。今後、住民の方などに主体となっていた地区ごとの具体的な再生方針を検討する復興まちづくり計画を策定するなかで、ご意見につきましても今後の取組の参考とさせていただきます。
5	8	昨年７月の水害で被災された方々には心からお見舞い申し上げます。また、コロナ禍の中、復興にご尽力されている皆様には安全に留意されご活躍されることをお祈りいたします。今回の水害により、やむを得ず閉店、再建をされるお店、再建されたお店の経営者の方も「また、水害がおきたらどうしよう」と不安に思っておられる方が多数おられます。そこも踏まえた上で、堤防整備・河道掘削・治水対策等検討されていると思われるが、長い時間を要すると思われ不安が募るばかりです・・・私は人吉盆地、球磨川、人情味にあふれた人吉市が大好きです。ですので、被災された全てのお店に再建して欲しいと願っております。そこで、経営者の方々、お店再開を心待ちにしている人吉市民、人吉市が力を合わせて！「１階は天井高めの駐車場、２階は商店街（飲食店・スナック等含む）」の建設計画をご提案します。人吉市活性化にもつながる未来へのプロジェクトと称し、SNSやメディア等利用して人吉市がまた素敵な観光地として前進する材料の１つとなれば嬉しいです。	3	住民の皆さんが安全・安心に暮らしていけるように、国・県等と連携し治水安全度を高める取組を進めてまいります。また、災害前よりさらに魅力ある人吉の再生に向けて、今後、住民の方などに主体となっていた地区ごとの具体的な再生方針を検討する復興まちづくり計画を策定するなかで、ご意見につきましても参考とさせていただきます。
6	9	・球磨川は今回の豪雨災害により街や川も大きな被害を受けたが、その河川の復旧とともに球磨川の清流を生かし更に魅力を増した復興後の活性化を図っていただきたい。具体的には、梅花の渡しの城側の船着き場を整備し球磨川下り発船場との渡しの再開や川底の掘削をして昔のようにボート遊びもできるような川面の活用をする、数か所の水泳ができる所の整備や中川原（撤去されるなら他のところ）に人々が訪れ自由に楽しむキャンプサイト等の癒しの親水公園の整備をする。	2	ご意見にもありますように、今回の災害は自然の脅威を突き付けられるとともに、球磨川をはじめとする豊かな自然、歴史、文化など、ここにしかないものの大切さ、魅力を改めて見つめなおす機会でもあります。一日も早い人吉らしい景観を取り戻すとともに、観光拠点をルート化し観光客の回遊性を高める取組など、災害前よりさらに魅力ある人吉の再生に向けて、いただいたご意見も踏まえながら取組を進めていくとともに、今後住民の方などに主体となっていた地区ごとの具体的な再生方針を検討する復興まちづくり計画においても、参考とさせていただきます。
	10	・球磨川右岸に社会実験されている「明かり灯し」または街灯を球磨川下り発船場まで散歩道路全部に設置し、夜も自由に散策できるようにする。		
	11	・人吉城跡と球磨川の素晴らしい景観を生かすため城見公園のトイレと駐車場等を整備し活用する、できたら城見公園と一体とした１階は駐車場の図書館を設置できたらよいと思う。		
	12	・古い街並みと人吉城跡等日本遺産を歩くフットパスコース（里山や田園地帯、古い街並みなど昔からその地域に残るありのままの風景を心身で感じながら歩く）は「相良藩城下町コース」として私達「フットパス相良路」で実施しているが、今回の豪雨で古い街並みと球磨川の景観が失われているので、それを取り戻し更に美しい魅力ある景観の復旧整備をしていただきたい。 復興後は熊本県が取り組んでいる「歩く人を歓迎する街づくり」や人吉市が進めるウォーカブルシティとして城下町の街並みや桜と紅葉がきれいな人吉城跡、球磨川河畔等の日本遺産など歴史や自然を生かした、何時でもその部分的だけでも歩けるようなビューポイント・駐車場・トイレ等を入れたコースマップを作り、観光客や市民も散策を楽しめるような計画を進めてもらいたい。		
7	13	・人吉球磨を一つの地域と考えて未来の復興を望みます。皆さんにぜひ多良木町久米の妙見野自然の森展望公園（又市房山頂からの）から望める穏やかな人吉球磨盆地と市房山、白髪岳、仰烏帽子山、他の山々をぜひ見てほしいと思います。この山々がおいしい空気ときれいな水をはぐくみ、太古の昔から球磨川、川辺川、万江川、ほかの支流が人々に恩恵を与え生活を支えてきてくれました。この大切な命に直結する自然をダムつくることで壊さないでください。	3	人吉球磨をはじめとする流域自治体との連携は、治水対策をはじめ復興に向けて一体的に取り組んでいくことが必要不可欠であると考えています。ご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
	14	・今都会の人は感じています。コロナ禍でもあり、自然の中で過ごす大切なことが、きれいな空気、水、人柄はこの地にあります。今、みなさんが求めているものがここにあります。人吉・球磨のこの輪が必要です。自然を求める人にこの地域を利用してもらいましょう。未来の子供たちに自信を持って地域の良さを伝えて視野を広げてあげていくべきです。リモートの普及による企業の働き方の変化、それに伴う家族移住や後継者不足の農業・林業の若者の定着推進を期待します。	2	ご意見にもありますとおり、社会情勢の変化、通信技術等の進展により地方への関心が高まっている状況を踏まえ、本市が有する豊かな自然の魅力の発信に取り組むとともに、地域資源を活かし、人が残り人を呼び込むためのしごとづくりを弾力的に進めていく必要があると考えております。ご意見も踏まえながら取組を進めてまいります。
	15	・被害がひどかった大柿地区またはほかの場所を（ＴＶにて外国ベニスの水との共存の方法放映を見て）、再度の災害の最小限の被害を考慮し、嵩上げたスポーツ会場、コート、キャンプ場、川遊び公園、民宿、紅取山登山、ウォーキングコース等みんなが憩えるスペースとして復興できたらと思います。	3	被災した地区の今後の再生方針につきましては、今後、住民の方などに主体となっていた地区ごとの具体的な再生方針を検討する復興まちづくり計画のなかで、安全安心に暮らせる住まい対策やまちづくりに向けて具体的な検討を行ってまいります。ご意見につきましても、今後の取組の参考とさせていただきます。
	16	・観光の城見公園にトイレ、図書館（第２として）、２階を利用、１階はくつろぎスペース。このスペースは近くの球磨川下りの民間会社と連携しての喫茶提供はどうでしょうか。又は定期的な移動図書館の計画。自動販売機の設置。花壇等。	3	観光の再生に向けて、球磨川や人吉城跡など魅力的な景観や歴史を活かした回遊性を高める取組が重要と考えております。ご意見につきましても、今後のまちづくりの参考とさせていただきます。

人吉市復興計画（素案）に対する意見公募（パブリックコメント）の結果と、ご意見等に対する人吉市の考え方について

通番	枝番	ご意見等の概要	対応区分	市の考え方
7	17	・防災に役立てるため皆さんに伝えておきたいこと等や避難所、仮設住宅での良かったこと悪かったことが知りたいです。	2	今回の災害経験を踏まえ、地域全体で防災意識を高め災害への備えや早めの避難を定着化していくことが重要です。ご意見も踏まえながら、防災情報をはじめとする情報発信全般についてきめ細やかな情報発信に努めてまいります。
	18	・天気予報で線状降水帯が出たらダム放水を早くしてほしい。非常時の放水の規定があるのであれば以前より降雨量に変化していることを認識すべきだと思います。	3	ご意見につきましては、国・県へもお繋ぎし今回の災害を踏まえた改善がなされるよう、連携して対策を進めてまいります。
	19	・水が一挙に流れるのを防ぐ一つの方法として雨水を各家庭でためるタンクの設置（補助金ありにして）を提案します。	3	治水対策については、国や県、流域自治体による取組だけでなく、各家庭でできる対策も含め、地域全体で治水安全度を高める取組を進めていくことが重要であると考えています。今後、住民の方などに主体となっただき地区ごとの具体的な再生方策を検討する復興まちづくり計画を策定するなかで、具体的な取組の検討を行うとともに、いただいたご意見につきまして、今後の取組の参考とさせていただきます。
	20	・コンパクトシティは人吉球磨を一地域として考えて欲しいです。	3	人吉球磨の市町村間連携は、今回の災害における治水対策をはじめ復興に向けて一体的に取り組んでいくことが必要不可欠です。現在、様々な分野で連携協力を展開している人吉球磨定住自立圏の取組もさらに推進していくとともに、いただいたご意見につきまして、今後の取組の参考とさせていただきます。
8	21	・山田川と万江川にバイパスを造って球磨川に流す事はできないか？	3	国・県の治水対策を踏まえて検討してまいります。
	22	・復興まちづくり座談会での町内会長の意見はイコール住民の意見のようになっているので、どのような意見が出されているのか教えてほしい。町内別でも座談会のような事はできないでしょうか？そこでの意見を集約して町内会長から市へ伝えるという形はできませんか。	3	本来、より多くの住民の方にご参加いただき地域の復興へ向けた意見交換を行うべきところ、コロナ禍により人数制限をせざるを得ない状況での開催となりました。座談会等の状況につきましては、市ホームページや広報ひとよし等において状況をお知らせするなど、情報周知に努めてまいります。
9	23	計画の中には、個人所有の文化財の保護に全く目が向けられていない。個人の住宅でも文化財的な建物もある。五日町の市花宅は、明治中期の家で、取り壊す予定になっている。市内の江戸商いの文書、物品も「ゴミ」として捨てられている。調査もなされていない。壊す、捨てる前に調査を！！	2	復興計画では包含した内容としております。なお、施策の推進にあたってはご指摘の点に留意してまいります。
10	24	1 災害公営住宅を出来るだけ交通の便の良いところに建設してください。	3	災害公営住宅の整備につきましては、被災者の方のご意見などを適宜把握させていただきながら検討してまいります。
	25	2 川辺川ダムを造る費用があるなら人吉流域の中川原公園の全面撤去の費用に充ててください。これは今年の梅雨期までに実施してください。	3	中川原公園の在り方につきましては、歴史的見地や科学的見地の両側面から検証し、国・県の治水対策や住民意向等を踏まえ、今後の方針を検討してまいります。
	26	3 文化振興計画を設けて、大工町あたりの中心市街地に図書館・美術館を建設してください。また、カルチャーパレスは存続する方向で検討してください。	3	中心市街地の復旧復興に当たっては、賑わい創出を醸し出すようなまちづくりが重要であり、住民の方や事業者の方々と十分な協議、検討を重ね再生方策を検討していく必要があります。今後、住民の方などに主体となっただき地区ごとの具体的な再生方策を検討する復興まちづくり計画を策定するなかで、ご意見につきましても今後の取組の参考とさせていただきます。
11	27	A（１）毎年のように日本のどこかで大洪水で被害が発生している。球磨も〃危険性で要している。ハザードマップは各家庭に配布されて、被災予防に役立っていると思われるが、警戒１、２、３、４発令時水位がこの点まで来るという標識を立て、地域住民へ危険を常日頃から関心を持たせる事。	2	今回の災害を踏まえ、緊急時の防災・避難情報が災害時に確実に住民のもとへ届くように伝達手段の多重化を図り、特に緊急避難を要する際の情報伝達は警報サイレンによる呼びかけを行うなど確実な避難行動につながる情報伝達を行ってまいります。また、ご意見にありますとおり、標識等によって浸水リスクを表示する等により、誰もが災害リスクを日頃から意識できる環境整備が重要であることから、ご意見も踏まえながら、地域全体で取組を進めてまいります。
	28	（２）町内毎に避難訓練の実施と同時に避難弱者の町内の役員等が共有して避難訓練を雨前に年１回実施を義務化する事が望まれる。	2	災害に備え、より実効性のある避難訓練が重要であることから、出水期前の実践的避難訓練や地域における様々な場面において避難訓練等の要素を取り入れることを推進し、ご意見も踏まえながら、地域全体で防災意識の向上、定着化を図ってまいります。
	29	B 各家庭へ有線放送の危険性を周知徹底する伝達方法と早急に確立する事	2	緊急時の防災・避難情報が住民に確実に届くことが重要であることから、通信回線及び伝達手段の多重化を図ってまいります。防災行政無線については、各家庭に戸別受信機（防災ラジオ）を配布し、屋内においても情報が全ての住民に届く体制づくりに取り組んでまいります。

人吉市復興計画（素案）に対する意見公募（パブリックコメント）の結果と、ご意見等に対する人吉市の考え方について

通番	枝番	ご意見等の概要	対応区分	市の考え方
11	30	C 水災が起きそうな場所へ出来る限り新築させない事。	3	今後も浸水が想定される地域については、居住誘導を含めた土地利用について検討をすることとしており、今後住民の方などに主体となっただき策定する復興まちづくり計画において具体的な取組の検討を行うとともに、いただいたご意見につきまして、今後の取組の参考とさせていただきます。
	31	D 少子高齢化は高まる事は確実視されているので、安全土地（高台）等に住める町づくりも考慮してほしい。現在支え合っている人達を将来支える人材がいなくなる事は目前に迫っている。		
12	32	①対策後も水害のおそれのある地域は、水害のおそれのない高台への移住を促進する。（上原田、下原田、願成寺、鬼木、泉田等）	3	今後も浸水が想定される地域については、居住誘導を含めた土地利用について検討をすることとしており、今後住民の方などに主体となっただき策定する復興まちづくり計画において具体的な取組の検討を行うとともに、いただいたご意見につきまして、今後の取組の参考とさせていただきます。
	33	②中川原の公園は大橋の橋脚以外は全部撤去する。（胸側、山田川、球磨川の合流点で水位上昇の原因の一因になっている。）	3	中川原公園の在り方につきましては、歴史的見地や科学的見地の両側面から検証し、国・県の治水対策や住民意向等を踏まえ、今後の方針を検討してまいります。
	34	③水害に関係のうすいもの、重要度の低い工事は後回しにして、優先順位を厳しく付ける。	2	復興計画（案）第6章「復興計画の推進」にも掲げていますように、甚大な被害をもたらした今回の災害から復興を遂げるには、長い年月と多額の費用を要します。復旧復興を着実に進めていくためにも事業の選択と集中を進め、復旧復興事業に重点化していく必要があります。
	35	④河川の掘削の深さ、巾を最大限にし、余裕の流量を確保する。（出来るだけ）	3	国・県の治水対策を踏まえて検討してまいります。
	36	⑤④に限界がある場合は、観光上美観上より安全上を優先し、強固な堤防を高く築く。		
	37	⑥堤防には、なるべく河床掘削で発生した砂利、岩石を利用した「じゃかご」などを利用し、柳の枝を挿し木補強を行う。また、川岸に河津桜を市民の寄付によって植え、復興後の観光に生かす。→低コストC02削減、伝統的な土木工法の伝承になる。		
	38	⑦①に対応出来ない住戸は軒下などにゴムポート等を設置しておく。（地域によっては小舟を各戸装備しているところが昔からあります。）	3	治水対策については、国や県、流域自治体による取組だけでなく、各家庭でできる対策も含め、地域全体で治水安全度を高める取組を進めていくことが重要であると考えます。今後、住民の方などに主体となっただき地区ごとの具体的な再生方策を検討する復興まちづくり計画を策定するなかにおいても、具体的な取組の検討を行うとともに、いただいたご意見につきまして、今後の取組の参考とさせていただきます。
	39	⑧水害保険加入を徹底する。	2	治水対策については、国や県、流域自治体による取組だけでなく、各家庭でできる対策も含め、地域全体で治水安全度を高める取組を進めていくことが重要であり、水害保険等の加入を促進し、地域全体で災害に強く対応する体制づくりを強化してまいります。
	40	⑨今後も水害をうけることを前提に住宅の階数、水に強い内外壁、床材の選定、床下の泥排出の容易な構造にする。（建築基準法の緩和）→後片付け、洗浄、ゴミの減量化	3	治水対策については、国や県、流域自治体による取組だけでなく、各家庭でできる対策も含め、地域全体で治水安全度を高める取組を進めていくことが重要であると考えます。今後、住民の方などに主体となっただき地区ごとの具体的な再生方策を検討する復興まちづくり計画を策定するなかにおいても、具体的な取組の検討を行うとともに、いただいたご意見につきまして、今後の取組の参考とさせていただきます。
	41	⑩山林の大規模伐採の禁止、搬出道路の新設の制限、重機伐採の制限、作業道の原状復帰の徹底する。	2	山を健全に保つことは防災・減災対策において重要であると認識しております。国や県、関係機関と連携しながら計画的な森林整備や放置林対策、鳥獣害対策、災害に強い路網整備等、ご意見も踏まえながら、山の再生に取り組んでまいります。
	42	⑪山林の広葉樹林化を促進し、土砂崩れを少なくし、鹿やイノシシのエサを確保し、山間部の田畑の獣害を抑える。		

人吉市復興計画（素案）に対する意見公募（パブリックコメント）の結果と、ご意見等に対する人吉市の考え方について

通番	枝番	ご意見等の概要	対応区分	市の考え方
12	43	⑫山間部の集落は安全な地域、都市部へ移住を促進し、市の財政負担を抑える。	3	将来にわたり持続的なまちとするためには、本市にある豊かな地域資源を十分に活かし、安全安心とともに、人が残り人を呼び込むためのしごとづくり、まちづくりを弾力的に進めていく必要があります。本市復興計画（案）第5章に「未来につながるまちづくり」の実現に向けて、住民の方が主体となり地区ごとの再生方策を検討する復興まちづくり計画における検討や、いただいたご意見を参考にしながら取組を進めてまいります。
	44	⑬新築の場合は景観に協力してもらい、色（屋根、壁）を統一させ、観光に役立てる。（一部費用を補助）		
	45	⑭街路樹を剪定、落葉掃除など、維持管理費が少ないもみじ、河津桜などに移行する。造園業者には別に仕事を手当する。観光上も役立つ。		
	46	⑮若者が働ける産業を興す。 ア 杉、桧、竹材などを薄板にし、何層にも重ね合わせ曲線のある部材をつくり、北欧家具に負けない家具、木工品、生活用品の一大産地をつくる。	2	将来にわたり持続的なまちとするためには、本市にある豊かな地域資源を十分に活かし、若者がここに残りたいと思えるしごとづくり、まちづくりが必要です。ご意見も踏まえながら、地元産業の魅力や愛着を高める取組、また、新たなしごとや雇用を創出する取組を進めてまいります。
	47	イ 地域にある素材（木材、砂、農穀物）を生かし、少人数、家族、老人グループ、子育てママの仕事を生み出す。3人→10か所→30人雇用、3人→20か所→60人雇用、3人→50か所→150人雇用	3	上記No.43～No.45に対する市の考え方と同じ
	48	ウ 大企画誘致はダメ。不況になればすぐに撤退し、法人税、固定資産税など減免を要求し、賃金も低く抑えて所得向上につながらない。地元根付いたものにする。		
	49	エ 人吉に大学を誘致する。すでにある早稲田大学の通信制大学（コロナのリモート授業と同じこと）と特別提携校を開校し、親の教育費の負担を軽くする。人材、学生の流出を防ぐ教育のレベルアップ。人吉高校（東大合格者の優秀校）、球磨工業高校など優秀な人材の流出を防ぐ、生かす。→郷土愛の強化→人吉球磨の発展につなげる。	2	将来にわたり持続的なまちとするためには、本市にある豊かな地域資源を十分に活かし、若者がここに残りたいと思えるしごとづくり、まちづくりが必要です。ご意見も踏まえながら、地域特性を活用した研究、教育の集積に向けて、大学や企業等と連携しながら、人を呼び込む環境づくりに取り組んでまいります。
	50	オ あまった農産物（野菜、肉など）を利用した缶詰工場をつくる。→70年以上の保存が可能。予想される食糧不足や災害時の非常食に備える。国家的事業を興す。	3	上記No.43～No.45に対する市の考え方と同じ
	51	カ 河川掘削で発生した川砂を熊本、八代等の海砂しかない地域へ販売する。塩分がない為、良質な生コンが出来る。		
	52	キ 将来の台風の強大化に対応出来る木造住宅の必要性を見据え、地元産の杉、桧材を鉄骨と合わせてハイブリッドな構造用部材の生産を行う。住宅、店舗、工場に利用する。	2	今回の災害の経験を踏まえ、災害に強いまちづくりへの取組とともに、地域資源をさらに活かした取組が重要であると考えます。森林は、水源の涵養、山地災害防止、地球温暖化防止など多面的機能を有した大切な地域資源であり、循環型林業により健全な森林環境を保つとともに、ご意見も踏まえながら地元材の積極的活用に取り組んでまいります。
	53	⑯球磨川への放流している鮎からマスやイワナに変更する。魚体が大きく、刺身やムニエル、ソテーなど料理のバリエーションが増え、旅館、ホテルの若者、女性の食の好みに対応しやすく、増加の可能性が鮎よりあると思われる。また、若者や女性の釣り客の増加も見込める。	3	上記No.43～No.45に対する市の考え方と同じ
	54	⑰市内を流れている溝、水路を通年水を流し、錦鯉などを放流し、観光に役立てる。		
	55	⑱青井神社の池、城内の池の蓮を白だけでなく、ピンクの蓮も加える。山鹿市にある池のものを譲ってもらう。		
	56	⑲空き地となった土地にはもみじや河津桜など有益でメンテのいらぬ木を植え、観光に役立てる。なるべく樹種を絞り込み統一感を持たせる。		
	57	⑳自立した人吉にする。将来的には、国、県などの補助金に頼らない市にする。自立した大人の人吉に変える。	3	ご意見として承りました。今後の参考とさせていただきます。
	58	㉑一部の業者、人物、組織の利益ではなく、市民全員の利益に立って施策を行う。		

人吉市復興計画（素案）に対する意見公募（パブリックコメント）の結果と、ご意見等に対する人吉市の考え方について

通番	枝番	ご意見等の概要	対応区分	市の考え方
12	59	㊹国道219と肥薩線は橋脚式にする。 ・ 球磨川の中央に橋脚を造り、人吉側、八代側の両方から工事を進める→工期の短縮 ・ 橋脚の型枠は繰り返し使用する。コスト減。 ・ 完成した部分を作業道に利用しコスト減にする。 ・ 今後の土砂崩れなどにも対応できる。 ・ 人吉の陸の孤島化を防ぐ強固な道路となる。 ・ 高速道路のみでは不安がある。 ・ 現在の国道219は頼りない。 ・ 維持費がかかる、常に「工事中」がある。 ・ 強固な岩盤で杭が不要。 ・ 地主などの用地交渉が川なので不要。 ※問題点 ・ 各地域との接続が立体交差となる。費用がかかる。 ・ 全体的にはコストがかかるが長い目でみれば安くなる。	3	国・県と連携しながら、取り組めるものから早期に取り組んでまいります。併せて、今後、住民の方などに主体となっただき、地区ごとの具体的な取組を盛り込んだうえで策定する復興まちづくり計画の参考とさせていただきます。
13	60	①7月豪雨災害を支えた高校生ボランティア コロナ禍での災害は、ボランティアの支援も難しく、災害復旧に十分な人的な支援を受ける事が困難でした。当初は、ボランティアも熊本県内との規制もあり、復旧を後押ししてくれる支援が受けられない事のもどかしさを感じていた方も多いのではないのでしょうか。そんな中、市内の高校生たちが積極的にボランティアに参加している様子は、たくさんの被災者を勇気づけました。特に部活動の被災状況が甚大だった人吉高校および球磨工業高校のカヌー一部の生徒のボランティア活動には、多くのメディアが取り上げています。県内でも強豪校であり、優れたアスリートを輩出している部活だけであるというだけでなく、カヌーという競技が川と密接につながっている事、その練習場が球磨川だった事が大きな要因だと思われます。	3	球磨川の魅力や景観を活かしたラフティングやカヌー、マラソン大会等といったスポーツを通じた観光振興にこれまで取り組んでまいりました。今回の災害を受け、豊かな自然、歴史、文化など、ここにしかないものの大切さ、魅力を改めて見つめなおし、さらに活かしていくことが重要であると認識しています。一日も早い人吉らしい景観を取り戻すとともに、災害前よりさらに魅力ある人吉に国内外問わず多くの方が訪れていただけるよう、さらに力を入れて取り組んでいく必要があると考えております。いただいたご意見を今後の取組の参考とさせていただきます。
	61	②カヌー競技場で減災を カヌーの競技場に必要なのは、9m幅が9レーン、長さは500m以上、水深は1.5m以上です。この条件を満たす競技場が常設できれば、球磨川の復興アピールに大きな役割を果たすのではないのでしょうか。球磨川の氾濫を減災させるために、遊水池の設置が検討されていると聞いています。その遊水池の一部として、カヌー競技場を活用できれば、さらに注目度が高まり、地域の活性化につながると思われます。河川災害の専門家ではありませんので、このような事例が有効なのかどうかは、わかりませんが、ぜひ一度ご検討くださいますようお願い致します。		
	62	③定期的なスポーツイベントで計画的な収益を確保 観光イベントを開催するためには、広告費用の割合が高くなります。また、現状の被災状況では、観光施設の復旧までに時間がかかるため、収益につなげるまでは、先行きが不透明な状況です。その点、スポーツイベントは、年間の日程がある程度確定されているため、準備がしやすく、また、動員の人数についても把握が予測されます。観光資源の復旧を推進しながら、定期的なスポーツイベントで人吉への誘客を行うと、観光業の定期的な収入計画を立てやすくなるので、経営の安定化および収益のための設備投資も活性化する可能性があります。		
	63	④春風マラソンの知名度と体験を活かす 毎年、人気の春風マラソンには、多数のランナーがエントリーしていただいています。この体験のノウハウを各種のスポーツイベントに結びつけられないのでしょうか。コロナ禍で、人と人との接触が控えられる今日ですが、健康を維持するためのスポーツはかせないものです。被災した公共施設の立て直しや工事の際には、スポーツイベントを先々開催できるような仕組みづくりも検討課題として議論していくべきだと考えます。		
	64	⑤体に優しいアスリートめしの開発と提供 地産地消の促進を拡大する事をテーマにしたときに、農作物のブランド化があります。このブランド化を特定の作物だけにするのではなく、地域全体をブランド化していく方法を強化していくと、スピード感が増します。例えば、アスリート用の食事やレシピの公開、一定のたんぱく質摂取量が表示されているなど、アスリートを食事で支えられる情報を発信するのはいかかでしょう。 ＜例＞ 1. 飲食店および宿泊業のレストラン等で提供できるアスリートめしの開発 2. 競技別の食事の強化点の発信 3. アスリートめしでダイエット 4. アスリートめしで生活習慣病の予防など		
	65	⑥日本人旅行者向けの観光強化へつなげる（激変する観光業） 観光庁のデータによると、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の2019年度の旅行消費は、インバウンド17.2%、日本人宿泊旅行者は61.4%、日本人国内日帰り旅行は17.1%と実態は、インバウンドよりも、日本人の国内旅行の需要はるかに大きいことがわかります。コロナ感染症の影響により、観光業は変化しています。家族単位や少人数での移動が求められ、ツアーなど一度に数十人の旅行を行うのは、リスクが高いとされ敬遠されるケースが今後も続くと思われるので、日本人の国内旅行を推進する取り組みが、観光業を復興させる力になると考えます。 参照資料：観光庁「旅行・観光消費動向調査委2019年年間値」	2	ご意見にもありますとおり、社会情勢の変化、通信技術等の進展により、生活様式や働き方が変化しており、それらに対応した観光誘致体制や環境整備を弾力的に進めていく必要があると考えております。ご意見も踏まえながら取組を進めてまいります。

人吉市復興計画（素案）に対する意見公募（パブリックコメント）の結果と、ご意見等に対する人吉市の考え方について

通番	枝番	ご意見等の概要	対応区分	市の考え方
13	66	⑦球磨川をまるごと市民が楽しめる空間に 災害が起きた時に、車で避難できるスペースが少ない事が危惧されます。もともと、観光業が基幹産業であるにもかかわらず、駐車場が少ないために歩いて観光をする事が難しいとよく聞きます。人吉市は、回遊性を高めるウォーカブルシティを目指していますが、交通手段がJR肥薩線の復旧までに、車以外で観光客がくる方法がないのが現実です。避難所としても使用できる施設や駐車場などを作り、そこから歩いて観光やスポーツイベントに参加できるような形をつくれたら市民にとっても安心して暮らせるのではないかと思います。 1. 球磨川沿いの堤防をジョギングコースとして整備 2. 陸上の公式記録が残せる400mトラックの整備 3. 野外コンサートなどができる小規模の施設など	2	ご意見にもありますように、今回の災害から見えた課題を踏まえ、住民が安全安心に暮らせるまちづくりはもちろんのこと、災害前より魅力的なまち、持続可能なまちにしていく必要があります。ご意見も踏まえながら、また、今後住民の方などに主体となっていた地区ごとの具体的な再生方策を検討する復興まちづくり計画を策定するなかにおいても、参考とさせていただきます。
	67	⑧最後に 私たち人吉市民は、球磨川とともに生きてきました。これからも球磨川の民として川とともに生活するスタイルは変わる事はないでしょう。今後の復興を球磨川と共存できる形で、他の被災地のモデルとなるような環境ができればと願っています。	2	本市における復興の将来像（復興ビジョン）である「～希望ある復興を目指して～ 球磨川と共に創る みんなが安心して住み続けられるまち」の一日も早い実現に向けて、ご意見を踏まえながら、取組を進めてまいります。
14	68	・ P. 36①事業再開に向けた支援のなかで、被災事業者が雇用を継続できるよう、国の雇用調整助成金等を活用します。とあるが、国の雇用調整助成金を使えるのは事業者であって、市ではないので市が独自に考えている雇用継続支援を記載すべきではないか。	1	今後の被災事業者支援にあたって、国の支援制度に限らずあらゆる可能性を考えながら事業展開を図ってまいります。ご指摘を踏まえ、記載の一部を修正させていただきました。
	69	・ 同じように、3項目目の被災した事業者の施設や設備の早期復旧を国の制度を活用しながら後押しするという表現に違和感あり。ただ、事業再開に向けた支援や事業再開後の経営支援に今後もありたい再建サポートセンターでワンストップで対応していただけるのはありがたい。		
15	70	努力目標の作文にみえる。具体的事例と達成年度への記述がみられない。コンサルの作文であろうが、どこの市町村にでもあるような内容である。市民の意見、市職員の思い等読み取れない。市民の意見を聞くことから始めるべき。できるなら一からやり直して欲しい。	3	本計画の策定にあたっては、住民代表や学識経験者で構成される策定委員会での検討のほか、市民意識調査、校区懇談会等を通し、住民の思い、地域における課題についてご意見をいただいたうえで必要な施策を計画案として取りまとめたところでございます。地区ごとの具体的な再生方針につきましては、今後、住民の方などに主体となっただき策定する復興まちづくり計画において具体的な取組を検討してまいります。ご意見につきまして、今後の参考とさせていただきます。